

❖ お薬手帳用シールの例

甲状腺機能亢進症のお薬です

バセドウ病などの自己免疫疾患により、甲状腺ホルモンが過剰に作られる病気の薬です。

今は、どのような症状がありますか。頻脈、甲状腺の腫れ、動悸、息切れ、疲れやすい、汗ばむ、体重減少などの症状を改善します。

妊娠はできるだけ計画的に行うようにしましょう

バセドウ病があっても薬で適切に治療すれば安全に妊娠・出産をすることができます。

ただし胎児の器官形成期には飲めない抗甲状腺薬もあるので、妊娠はできるだけ計画的に行いましょう。

長期間飲む薬なので、医師の指示通り継続しましょう

甲状腺ホルモンが正常値になり薬がいなくなるまで時間がかかります。効果を見ながら薬の量を加減するので、症状が落ち着いていても指示通りに薬を飲みましょう。

禁煙しましょう

喫煙によりバセドウ病発症の危険性が高くなります。さらにバセドウ病の目症状(目が出る、目つきがきつくなる)発症の危険性も高くなります。

無顆粒球症などの副作用を早期に発見するために

初期症状(発熱、全身倦怠感、咽頭痛など)の症状が現れた場合は、服用を中止してすぐに主治医に連絡してください。定期的に血液検査を行うので、受診日を守って通院してください。

通常の食生活を行ってれば、 食事性ヨード摂取制限はありません

ただし多量のヨードは甲状腺機能低下症を起こすことがあります。昆布だしの常用、大量の海藻摂取、ヨード含有がいの薬(スプレー式含む)の連用などは避けましょう。

皮膚や白目が黄色くなる、尿が暗褐色になる、 体がだるいなどの症状が出たらすぐに医師に相談しましょう

規則的な生活を行い休息、睡眠を十分に取らしましょう

甲状腺機能が亢進している時は、心臓に負担がかかった状態になっています。激しい運動は避けるようにしましょう。また精神的に不安定になりやすく、過活動になって生活リズムが乱れやすくなります。

発疹やじんましんは比較的多く見られる症状です

このような症状は抗ヒスタミン薬を併用することで軽快することが多いので、抗甲状腺薬を中止せずに医師に相談しましょう。

甲状腺機能を亢進する薬に注意しましょう

交感神経刺激薬(エピネフリン、エフェドリン、テオフィリンなど)や抗コリン薬などと併用すると交感神経興奮作用が増強されることがあります。市販の総合感冒薬や鼻炎薬などにも入っているので、購入する場合は薬剤師に相談してください。

授乳する場合は医師に相談してください

授乳を希望する場合は医師に相談しましょう。授乳しても影響のない薬の量が知られています。